

ふれあいサロンで、高齢者と園児たちがにぎやかに交流する

まず、地区社協が一歩踏み出す

【茂原市】北部地区社会福祉協議会　北部地区地域福祉フォーラム

地域の課題を地域の力で解決したい
住民同士の助け合いサービスの実現に向けて

北部地区では、地域の幅広い人材で構成される北部地区社会福祉協議会が中心となり、平成22年度から地域福祉フォーラムを開始。地区の課題やニーズを掘り起こそうと、自治会や地区住民と連携して調査などを実施してきました。そして、明らかになった地区のニーズ・高齢の住民の日常生活の困り事を解決するため、北部地区では住民同士による助け合いの有償在宅福祉サービスの実現に向けた取り組みを展開しています。

地区のニーズ・住民の意見を探る

茂原市には市内13地区に地区社会福祉協議会が組織されています。北部地区（萩原小学校区）はJR茂原駅の北側の住宅地・商店街のある市の中心地（人口約7500人・3100世帯。高齢化率26.2%）。いわゆる旧住民が暮らす伝統的な地域と高度経済成長期以降に開発された新住民が暮らす地域が混在しています。北部地区社会福祉協議会（以下、北部地区社協）は、自治会、長寿会、PTA、民生委員、ボランティア、教員 、保護司、更生保護女性会、保健委員、学識経験者等から選出された30名で委員会を組織。ふれあいサロンを活動の中心に、世代間交流、敬老行事、友愛訪問などの事業を展開しています。

「北部地区をより良くしていくために、多くの住民が集まれる場をつくり、意見を出し合おう」。このような共通認識を持った北部地区社協が推進役を担い、北部地区地域福祉フォーラムがスタートします。しかし、事業開始前後、北部地区としての方向性が定まるまでは試行錯誤の連続だったということです。

まず、上記の認識を共有するまで、北部地区社協で1年間の準備期間が必要でした。議論の結果、事業に取り組むことを決め、1年目の平成22年度には、地区にどのような生活課題・ニーズがあるのか、より多くの住民から意見を吸い上げようと、アンケート調査を実施します。調査内容を地区社協が取り組んできた高齢福祉に絞り、ふれあいサロンや地区内27自治会などで呼び掛けを行ったところ、幅広い年代の住民466人が調査に参加しました（地区社協委員が地元自治会等に協力を依頼して調査を実施）。

2年目の平成23年度には、アンケート調査の結果をもとに協議を開始します。地区の住民に参加を呼び掛け、自治会長と長寿会役員など十数名が参加することとなり、地域福祉フォーラム（座談会）でアンケート調査の分析・情報共有・意見交換などを行いました。「アンケート調査により、地区内で高齢者ひとり暮らし世帯や高齢夫婦世帯が増えていること、日々の暮らしの中で買い物困難などの生活の困り事を抱えていることが明らかになりました。こうした地域の生活課題やニーズを踏まえ、その解決策を地域福祉フォーラムで協議していくことを決めました」。こう語るのは地域福祉フォーラム推進委員を務める村上義則さん。当初、北部地区では議論の場を創設することを重要な目標としてきました。確かに、自治会や長寿会のほかにも新たな参加を募って会議を進めていくことも重要なことですが、生活支援という地区の課題が明らかになった中、地域の課題を解決していく仕組みづくりに注力していくことを目指したのです。

住民同士の助け合いを目指す

地区の住民の生活上の困り事をどうするのか。北部地区地域福祉フォーラムでは、議論を重ね、平成23年度末以降、住民同士の助け合い・ボランティア精神に基づく有償の在宅サービス（以下、助け合いサービス）の具体化に向けた検討を開始します。6月に開催した地域福祉フォーラムで自治会長と長寿会役員と協議したところ、「住民のニーズを再度確認してほしい」との要望があり、地区内の5自治会で意向調査（2回目の調査）を実施しました。この調査には395人の住民が参加。地区の住民がどのような困り事を抱えているのか（庭の草むしり・簡単な営繕・買い物・生け垣の手入れ・ゴミ出し、ほか）。どのような支援をしたいと考えているのか（買い物・草取り・電球交換・ゴミ出し、ほか）。地域の状況を地域福祉フォーラムで共有することができました。

そして、約3年間にわたり調査・協議を重ねた結果、今後、地区社協の事業として助け合いサービスの実施を目指すことを決めたのです。

北部地区での地域福祉フォーラム事業は平成24年度に終了しますが、北部地区社協では平成25年度に地区内の萩原町自治会でモデル的に助け合いサービスの仕組みづくりを進めていく予定です。無償では気兼ねして頼みづらいということから100円から500円のワンコインの有償サービスを想定していますが、具体的な助け合いの中身・運用方法などはこれから詰めていくことになります。

「地区に助け合いを望む声があり、若い世代の住民からも将来にわたって必要との声がありました。地域の人たちと一緒にかたちにしていきたいですね」と地区社協監事の鈴木誉之さんは言います。北部地区の取り組みを多くの人たちが注目しています。


北部地区地域福祉フォーラムには自治会や長寿会の役員、北部地区社協の委員が参加

■北部地区地域福祉フォーラムの運営体制

1年目	地区社協役員会が「実行委員」を兼務
2年目以降	「地域福祉フォーラム推進部会」を設置し、選出された4人の推進委員（地区社協委員）を中心に取り組みを推進
地域福祉フォーラム（座談会等）開催回数	23回

安心・安全のまちづくりに向けて

地域福祉フォーラムの成果について、北部地区社協会長の若菜一男さんは次のように語ります。「地域福祉フォーラムは話し合いをするだけでなく、協議をする中で明らかになった課題やニーズに対応していくことが重要だと考えます。北部地区では、地区の人たちの困り事の実態が明らかになるにつれて、助け合いサービスに結び付いていきました。これは大きな成果だったと思います」

委員の鈴木小夜子さんは「身近な地域だからこそ助け合えることがある」と言います。「近年、公的な福祉サービスが充実してきましたが、日常生活で、言いだせないこと、頼みづらいことがあるでしょう。『この心配事が解決しないと、安心して明日が迎えられない』。こうしたときに、身近な地域で助け合える仕組みがあれば安心につながると思います。地域フォーラムの成果を地域の安全・安心づくりを生かしていきたいですね」。地域のニーズを地域の人たちと一緒に解決していくことが、人のつながり、誰もが安心できる地域づくりにつながっていくのでしょう。



北部地区社協の皆さん